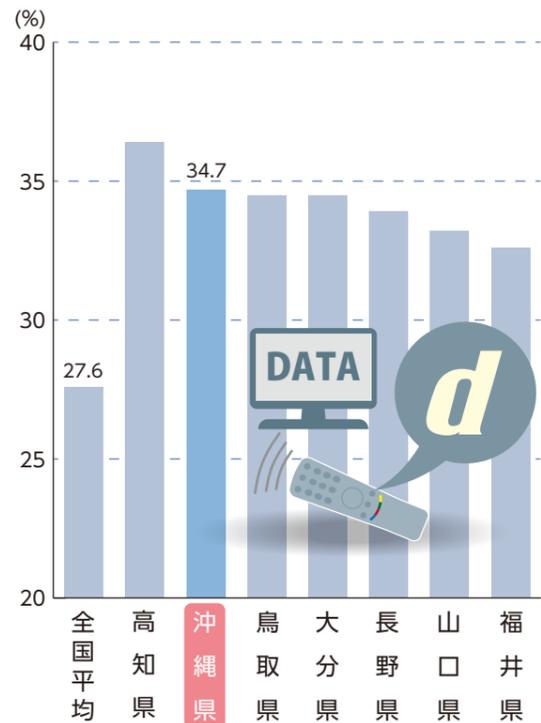


●データ放送機能の未使用率
(2012年)



34.7%

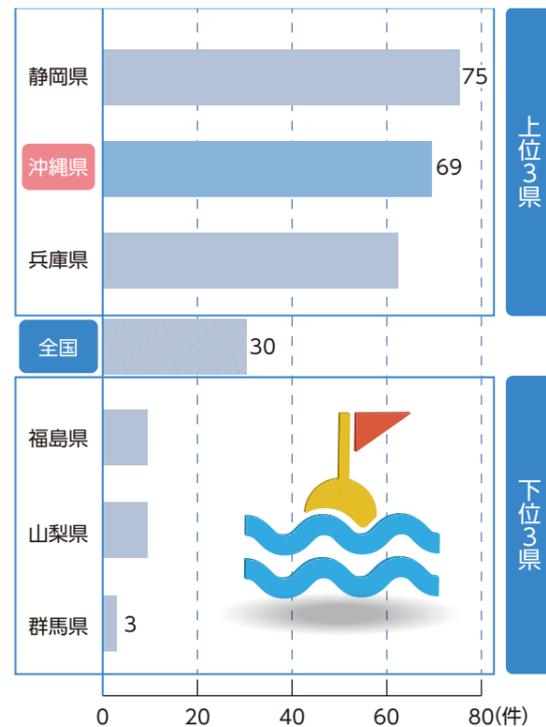
デジタル対応テレビのリモコンについている「d」ボタン。使用すると、いつでもニュースや天気予報も見ることができ、ドラマのあらすじ・登場人物など番組連動データも表示される。また、番組内のクイズに参加するなど双方向通信を行うこともできる。

総務省「2012年通信利用動向調査」によると、沖縄県内でデジタルテレビ放送のデータ放送機能を「全く利用しない」という未使用率は34.7%。全国で2番目にデータ放送機能の利用が少ない。全国的にみると、高齢者の方の利用機会が少ないようだ。高齢者比率が比較的低い沖縄が上位にあるのは興味深い。

地域のイベント情報や休日・夜間の診療案内など、暮らしに役立つ情報を提供してくれるデータ放送。「あい！今日の天気はどうかね〜？」とこれから予定を立てる際、利用されてはいかが？

(海邦総研・安田ひろみ)

●水難発生件数
(2012年)



69件

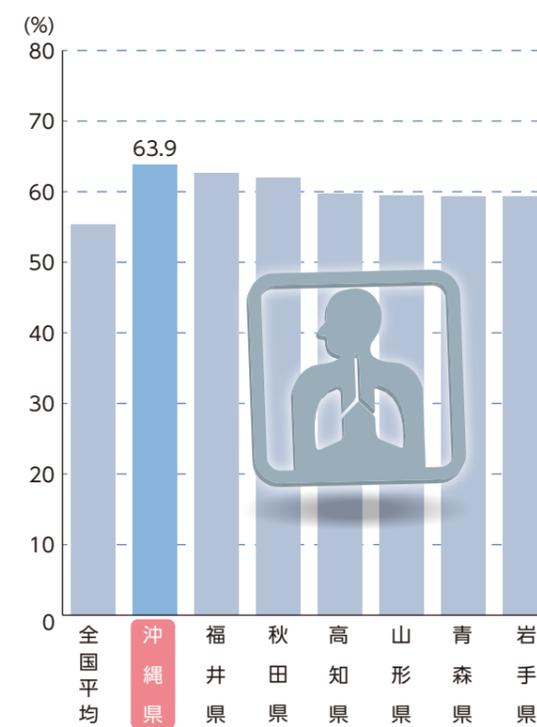
夏休みも半ばを越えたが、この時期は海や川などに掛ける機会が増える。豊かな自然とのふれあいは、人々に大きな喜びと感動を与えるだけではなく、子どもたちをたくましく成長させる。その一方、夏場は水難が多発する時季でもある。特に沖縄では、水難発生件数が多いようだ。

警察庁「2012年中における水難の概況」によれば、県内の2012年の水難発生件数は69件。全国で2番目に多く、観光客の水難も増えている。原因としては、ライフジャケットを使用しないでシュノーケリングや釣りをしたり、監視員や救助員のいない場所で海水浴を行う、などの特徴があるようだ。

一見して、何の変哲もない水辺でも、数々の危険が待っている。水難は他人事ではなく、水に関わる方々にとっては、いつでも当事者になることを肝に銘じ、水と楽しく共存したいものだ。

(海邦総研・湧川竜也)

●定期健康診断有所見率
(2012年)



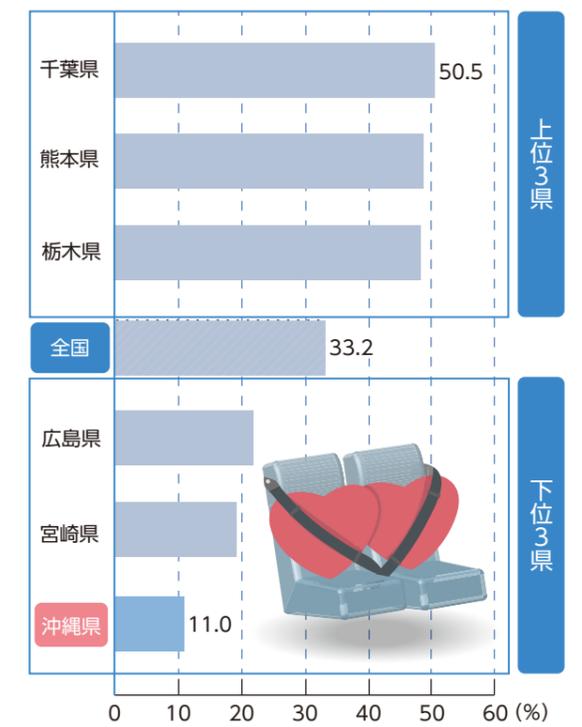
63.9%

年に一度の業務だが、年々内容は悪くなり、その後の結果を聞くのも怖い。そんな恐れや不安を感じている人も多いだろう。その業務とは、会社から連絡を受けて受診する健康診断のことだ。

厚生労働省「2012年業務上疾病発生状況等調査」によると、沖縄県の定期健康診断における有所見率は63.9%と全国で最も高い。有所見率とは、事業所に義務付けられている定期健康診断でなんらかの異常が見つかった人の割合のことだ。なお、調査には50人未満の事業所は含まれておらず、実態はさらに深刻な可能性もあるらしい。沖縄県では「健康おきなわ21」計画を策定し、県民の健康づくりを推進中だ。とはいえ、まずは自身の意識改革が肝要だ。生活習慣を改善するには、数値による可視化と日々の記録付けが有効だ。周りの人の力も借りて、まずは改善に向かう意思を固めたいものだ。

(海邦総研・比嘉明彦)

●後部座席のシートベルト着用率
(2012年)



11.0%

車の後部座席でもシートベルトを着用しているだろうか。警察庁と日本自動車連盟が行った「シートベルト着用状況全国調査」によると、沖縄県の運転者の着用率は96.4%で、全国と大きな差はない。しかし後部座席は11%で全国最下位。しかもその値は1位の千葉県の5分の1、全国平均の3分の1という低さだ。

2008年からすべての座席でシートベルトの着用が義務化された。ただし後部座席は、一般道での違反に罰則はない。また、もともと後部座席にシートベルトがない場合など、例外の規定もある。

罰則がなければ着用しないという方もいるだろう。だが万が一の事故の際、シートベルトをしていなければ、車外へ投げ出されるなど、深刻な結果につながる可能性が高い。後部座席に乗る時も乗せる時も、自分と大切な人のためにシートベルトを着用しよう。

(海邦総研・鮫島智行)